

伊賀市上野西部 公民館だより



第131号

平成26年3月14日

編集発行:上野西部公民館

所在地:伊賀市上野福居町

TEL・fax 0595-23-9779

上野西部地区の人口 世帯数 1,487 人口 3,389 人(内男 1,603・女 1,786) 26.2.28 現在

伊賀上野 NINJA フェスタ 2014



4/5土～5/6祝 主に土・日・祝 **伊賀市街地&上野公園**

☆ 伊賀傘蔵 **手裏剣打ち+足湯道場** 小玉町 **ぶち忍者道場**

☆ 西大手駅前 **吹き矢道場** ☆上野中町公民館 **折り紙道場**



☆ 町家みらいセンター

町家de忍者パズル道場

上野西部地区では 上記4+1カ所で忍者道場が開かれます、たくさんの観光客が来られます おもてなしで 上野西部地区をアピールしてください。

4月1日より **ごみの出し方などが大幅に変わります**

粗大ごみ戸別収集事業がはじまります

ごみ分別ガイドブックを参照して 間違いの無い様 お願いします。

刑法犯発生状況(平成26年1月～2月22日) 丸の内交番

上野西部地区該当町抜粋

事案別 発生場所	刑法犯 総件数	強盗	恐喝	空き巣	その他	自動車盗	自転車盗	ひったくり	車上狙い	部品狙い	自販機狙い	万引き	その他	器物破損	住居侵入
計	51	1	1	4	1	3	2	1	3	4	3	11	9	7	1
上野西部地区															
上野中町	1												1		
上野西大手町	1				1										
上野丸之内	2										1	1			
上野魚町	1							1							
参考															
上野茅町	4						1					2	1		
上野恵美須町	3					1					1			1	
上野桑町	4								1		1		1	1	
小田町	5	1										5			



伊賀市の文化財

上野西部地区編 No.10

伊賀市教育委員会発行 “伊賀の文化財” より

市23 い が ぶ ん か さ ん ぎ ょう じ ょ う
伊賀文化産業城
建造物
時代 昭和 所在地 上野丸之内106 (伊賀文化産業城)
指定年月日 昭和60年3月18日 備考 21-3148
員数 2棟



木造瓦葺三層の三階建て、白亜塗込めの純日本建築様式。二層の櫓を伴う複合式天守閣で、建物の高さは23.03mを測ります。復興天守としては数少ない木造建築であり、昭和10年(1935)に藤堂高虎築の天守基台に故川崎克氏が私財を投じて建設したものです。

市31 に し ま ち し ゅ う ぎ し ょ
西町集議所
建造物
時代 江戸 所在地 上野西町
指定年月日 平成11年3月26日 備考
員数 3棟



元の建物が大店の商家であり、他の附属の建物を含めて敷地全体がよく保存されており、往時の商人の生活ぶりが伺える貴重な建物です。江戸末期の建築と考えられます。

市175 い が う え の え ず
伊賀上野絵図
書籍・典籍・古文書
時代 江戸 所在地 上野向島町
指定年月日 平成8年3月26日 備考
員数 1幅



東京の染井町にあった藤堂藩別邸の蔵から元禄10年(1697)に発見された城下の古絵図3枚の内の1枚とされます。縦287.3cm、横320cmの画面に町名等が詳しく記され、城内の城代屋敷・櫓・蔵や城下の神社等の建物は絵画的に描かれています。製作年代は、藤堂出雲屋敷が描かれていることから、寛永17年(1640)以前のものとされます。

市212 う え の て ん じ ん ま つ り ぐ ぶ め ん の う め ん
上野天神祭供奉面・能面
有形民俗文化財
時代 江戸 所在地 上野徳居町
指定年月日 昭和54年12月20日 備考
員数 13面



上野徳居町が所有する面で、鎮西八郎爲朝をはじめ能面など13面があります。これらのうち1面は、裏側に天保12年(1841)2月の年号があり、他のものについてはもう少し新しく、江戸末期のものと考えられます。三鬼会が有する県指定文化財(彫刻)の面とともに、鬼行列として供奉される貴重な文化財です。

健康教室 開催されました



保健師のお話

3月2日（日）上野西部地区住民自治協議会・健康の駅長・上野西部公民館共催の“健康教室”が開かれました。この教室は毎年1回ですが 住民のみなさんに 体力を認識していただく為に 体重・体脂肪・血圧・骨密度・血管年齢などを測定しました。保険師さんによる健康相談や講演会が行われました。最後に日常家庭でおこなえる体操教室がありました。中休みにはおひなさんにちなみ甘酒のふるまいも行われました。



受付・身長



体脂肪



血管年齢



健康体操



骨密度



血圧

左記の写真は二月二十二日に行われた十二単と束帯の神前結婚式の一コマです。
(撮影 中山 暁氏)



煌星俳句会

(雛まつり)

粘土雛描く目鼻は母に似て

幼が作る粘土雛、その面は大好きな母に
だんく似てくる。幸せなひととき。

田畑寛一

リカちゃんも仲間に入れて雛祭

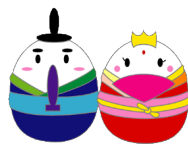
飾り雛の前でリカちゃん人形と遊ぶ子等。
見つめる雛のやさしい眼差しが見える。

百上進一

御殿雛かざり城下のつやめけり

今年も旧家に豪華な雛が飾られた。
つやめけりで人々の豊かな気持ちを感じられる。

蔵本稔恵



毛氈をはみ出さぬやう雛茶会

無礼の無いようにと。気遣いつつも、
お茶会を楽しんでいる様子が詠まれている。

富田まり



(大野利江選評)



朱の袴のふつくらとありどの雛も

あざやかな朱の袴に目を奪われた作者、
どの雛もで雛の袴がより強調された。

山本佳子



這ひ這ひに一段高き雛かな

いつの世も這えば立て、立てば歩めの親心。
それを見守っているおひなさま。

西村郁子

手の中の小さき雛に手の屏風

片手に収まる程の小さな雛人形。
作者は思わず四本の指を立てて屏風にした。

平野淑子

雛見世や町の茶道部みな着物

みな着物により、一日お雛様に仕えて
お茶をたのしんで頂こうというきもちが伝わる。

中森美年子